会員さんへインタビュー

会員さんいらっしゃ～い！ vol.6



東灘区 空区明楽会　尾崎美喜子さん

元気と驚きをクラブの運営に

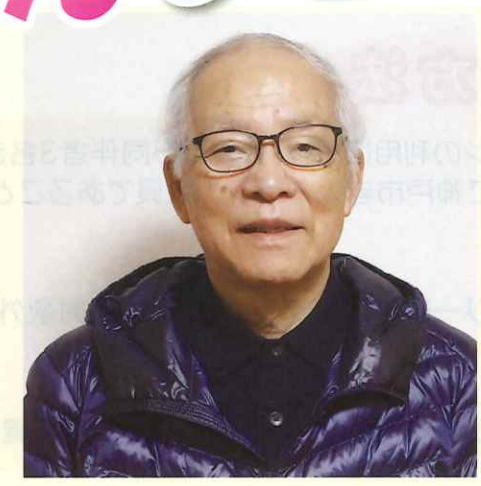
「去年は15名減った。このままやと自然消滅やわ」と肩を落としながらも、屈託のない笑顔で笑う空区明楽会の尾崎ミキコさん。

原因は高齢化。坂の上にある集会所での活動への参加が難しくなる方が多く、前期と後期に分けて実施しているお誕生日会での赤飯とみかさ（どら焼き）のプレゼントを受け取ってばかりなのが申し訳ないという方も多かったそうです。

「プレゼントもらえるし、入っとくわっていう人も多いし、そんなん気にせんでくれたらいいのに」と言いつつも、退会した人の気持ちも分かってしまうのが悩みどころです。

ただ、悪い話ばかりでもない様子。住吉支部の４地区でつくる住吉連合明楽会で始めた「脳トレマージャン」でのこと。「麻雀なんて誰がするんやろ」と懐疑的だったそうですが、蓋を開ければ大盛況。毎回60名以上が集まり、そして80～90代の女性が非常に多い。中には息子さんと一緒に参加されている方もいるそうです。「その世代の方が若い頃に家族麻雀が流行ったらしくて、麻雀を知ってる人が多いみたい」と、思いもしなかったことがクラブの活性化につながり大変驚いたそうです。

そんな話を聞いているうちに、会員でなければ知ることのできないエピソードも、ちらほらと出てきます。例えば住吉連合の日帰りバス旅行のこと。「私たちに合わせて、トイレ休憩も何度も取ってくれる。普通のツアーやったらそうはいかへんし、やっぱり便利ですよ」と語ります。会員と非会員の両面から見直せば、会員増につながる新たなアイデアが生まれるかもしれません。明朗快活でハキハキと話す尾崎さんの活躍に期待が高まります。



灘区 六甲さわやかクラブ　今井紘明さん

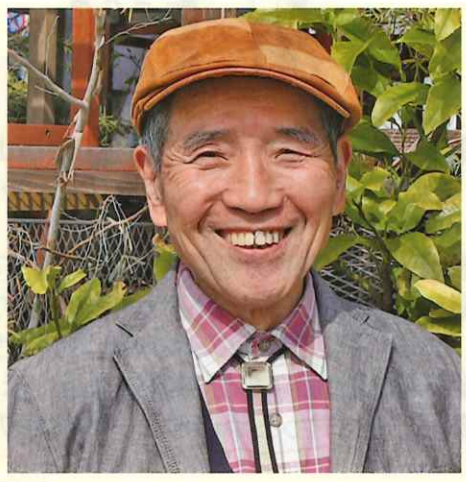
“クセ”が六甲地区の元気の源

六甲さわやかクラブは、六甲台のマンション「ハイツ六甲」に住む人たちで作る、会員40名の老人クラブです。会長を務めるのは今井紘明さん。いろいろなアイデアと行動力で会員相互の親睦を深めています。

マンションの集会室を使って、毎年10月から12月は会員手作りのモーニング喫茶を開き、12月からはお餅つき会、おぜんざい会、餅花づくり、おひなまつり会を順次開催しています。マンション管理組合と河原の清掃や夏祭り、新年会なども共催し、老人クラブ以外の住民とも親睦を図っています。参加できない方には部屋までお裾分けに行ったり声をかけたりすることも忘れません。マンションに住む人たちが別々の世帯ではなく一つの家族のようにつながることができる行事を行っているのです。

また、灘区老人クラブ連合会の混声合唱団では総務担当として運営全般を担い、さらに六甲地区の鶴甲白寿会、六甲アジサイ倶楽部、伯母の山倶楽部との合同行事「歩こう会」では代表幹事を務めています。「歩こう会」は年8～９回開催し、毎回40名ほどが参加する人気行事です。

「人の面倒を見るのがクセになってるんですよ。なんでも引き受けてしまう」と今井さんは笑います。会社勤めの頃は人事畑で新入社員の教育や人材育成に長年携わり、研修の企画や運営を行ってきたので、老人クラブの運営や雑務も苦に感じないそうです。持病もなく、薬も一錠も飲んでいないという今井さん。「部屋から出てみんなでワイワイ、手足を動かすのが大事」と健康の秘訣を語ります。そんな今井さんの元気が、六甲さわやかクラブはじめ、六甲地区の元気の源になっています。



兵庫区 湊山すまいる会　山口喜久男さん

点から線へ、線から面へ

「各単位クラブが点ではなく線にならないと」。地域やクラブによって悩みや課題は違いますが、互いに補い合えばいいのではないか。情報の共有化を進めて、兵庫区老人クラブ連合会として対応に取り組むと同時に、単位クラブが会員一人ひとりの好みや悩みも共有し、会員にとってより良い活動につなげていく。それが湊山すまいる会の会長を務める山口喜久男さんの考えです。

情報を共有しようとミーティングを繰り返すうちに「老いがくる」「認知症を遠ざけたい」「誰かと一緒にいたい」という悩みや不安を皆が持っていることが分かり、行事に参加しやすいよう定期化し、第1・第3月曜日の輪投げと、第2・第4の健康体操（頭の体操ほか）をしております。行事参加者のマンネリ化防止にKOBEシニアクラブ推奨の一つ「モルック競技」を取り入れ、新たな会員増強につなげるとともに、市老連の新たなスポーツ大会に発展できるように取り組みたいです。

そしてその共有を、委員長を務める「湊山ふれあいのまちづくり協議会」にも広げ、世代を超えた湊山地区全体の活性化にも繋げたい。点から線へ。線から面へ。そうすることが老人クラブの未来にもつながる。そうした思いから地域のクリスマス会や流しそうめんなどを企画、実施して3年。運営に関わる人たちが世代を超えて集まるようになり、ようやく軌道に乗り始めたと安堵の声を漏らします。

「老人という呼び名が嫌やと言われるけど、良し悪しは自分自身で納得すればいいのではないか。老人クラブをいろんな人と知り合える場として使っていろんなきっかけにしてほしい」という山口さんの言葉からは、年齢にこだわらず、元気に健康に、前を向いていく姿勢が伺えます。

あとがき

今号の表紙には「高齢者美術作品展」の様子を掲載しました。創作に打ち込む時間は、生きがいや、わくわくする気持ち、挑戦心を育み、心身の健康へとつながります。春という新たな一歩の季節に、皆さんも何かにチャレンジしてみませんか。日々の中で小さな目標を持つことが、暮らしに彩りと張り合いをもたらします。身近なことから始めて、心豊かな時間を重ねていきましょう。

「とっておきの作品」募集

会員の皆さまから、絵はがき＆色紙絵を募集しています。必要事項を記入したものを同封の上、作品をお寄せ下さい。

【必要事項】

①氏名（ふりがな）　②クラブ名　③題名　④郵便番号　⑤住所　⑥電話番号

※葉書サイズ（100mm×148mm以内）・色紙サイズ（242mm×272mm以内）でお願いします。それ以外は受付できません。

※作品は随時ご返却いたしますが、長期間お預かりする場合がありますのでご了承ください。

※作品は丁重に取り扱いますが、損傷については理由のいかんにかかわらず、一切の責任は負いません。

【宛先】〒650-0016 神戸市中央区橘通3-4-1　KOBEシニアクラブ「とっておきの作品」係